



# 校長室だより

校長 山崎 聡子

## 2学期 朝会

11月19日(火)に朝会を行いました。私からの話として、よいことについての力はつながっていくことを伝えました。

まず、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサについて、写真を見せながら、次の話をしました。

- .....
- ・1910年 北マケドニア共和国で誕生。
- ・21歳 インドのカルカッタで、高校の教師をしていたこと。
- ・38歳 インドのスラム街で学校を開き、学校に行けない子供たちのために無料で授業を行う。  
\*当時の教え子たちがボランティアで参加。
- ・40歳 神の愛の宣教者会を設立。  
会の目的は、お腹のすいている人、裸の人、家のない人、体の不自由な人、病気の人、必要とされることのないすべての人、愛されていない人、誰からも世話されない人のために働くこと。
- ・69歳 ノーベル平和賞受賞  
\*記念講演会の言葉

私は、ノーベル平和賞にふさわしい者ではありません。けれど、世界中の貧しい人々に代わって、この名誉ある賞をいただきます。私のための受賞晩餐会はいりません。どうぞ、そのお金を貧しい人々のためにお使いください。

出典：カトリック中央協議会ホームページ

・3度の来日(71歳・72歳・74歳)。そのうち

の1回、講演会を聴きに行き、そこで話されていた次の内容について。

「世界平和のために、私たちが行くことは？」という質問に対し、マザー・テレサは、「インドには病気になっても医者にかかれない人、お腹をすかしている人など、体の苦しみがある。日本は、街は綺麗で食べ物もあるのに、笑顔がなくうつわいている人が多くいる。あなたの側にいる人の中で悲しんでいる人、寂しい思いをしている人に笑顔で話しかけてください。それが世界平和の第一歩。大きなことでなくていい。小さなことでいい。あなたができることから始めてください。」

87歳で死去した後も、マザー・テレサの活動は、多くの人たちに受け継がれて、インドのみならず世界各国で今でも活動が続いていること。よいことは、人に受け継がれ、大きな動きになっていくこと。

\*マザー・テレサの美しい言葉を2つ紹介。

- あなたがちょっとほほえむだけでいいのです。新聞を読んであげるとよろこぶ目の不自由な人も、買い物をしてあげるとよろこぶ、重い病気の母親もいるでしょう。小さなことでいいのです。そこから愛が始まるのです。
- 忘れてならないのは、わたしたち一人一人自分の中に美しい何かをもっていることです

出典：マザー・テレサ 沖 守弘 小学館

.....  
マザー・テレサの活動のように、本校でも力がつながっていることがたくさんあることについて伝えました。一人一人の中に必ずある美しさを自分自身で選んで行動にうつしていき、みんなでより良い学校を作りましようと話結びました。